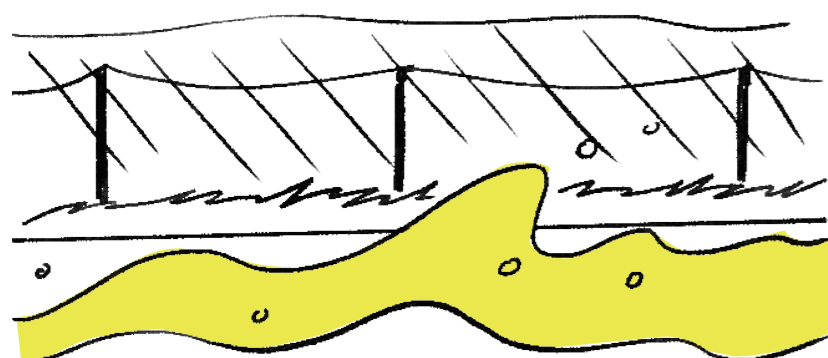


大雨のとき

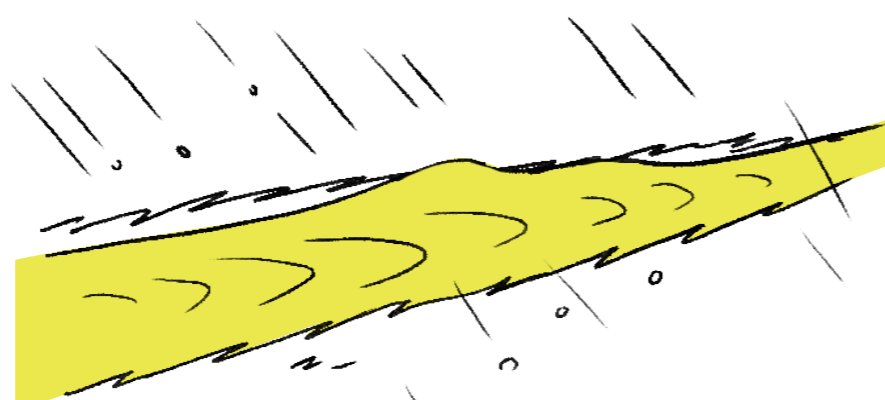
大雨時には様々な場所に危険があります。以下の場所には近づかないでください。

河川



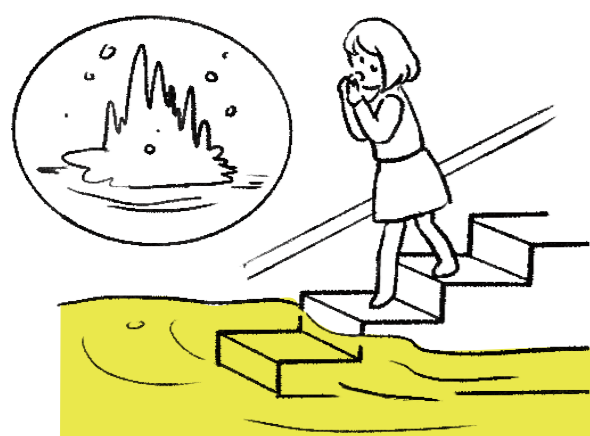
増水した河川は転落の危険性

用水路



用水路の存在が分かりづらく転落の危険性

地下施設



地下に水が流れ浸水の危険性

アンダーパス



車が浸かると身動きが
取れなくなる危険性

崖



土砂災害の危険性

❗感染症に注意

浸水時は下水も混ざり感染症リスクも。
できるだけ入らないでください。

❗声をかけあおう

田畑や用水路の様子を確認しようと
する人を全力で引き止めてください。

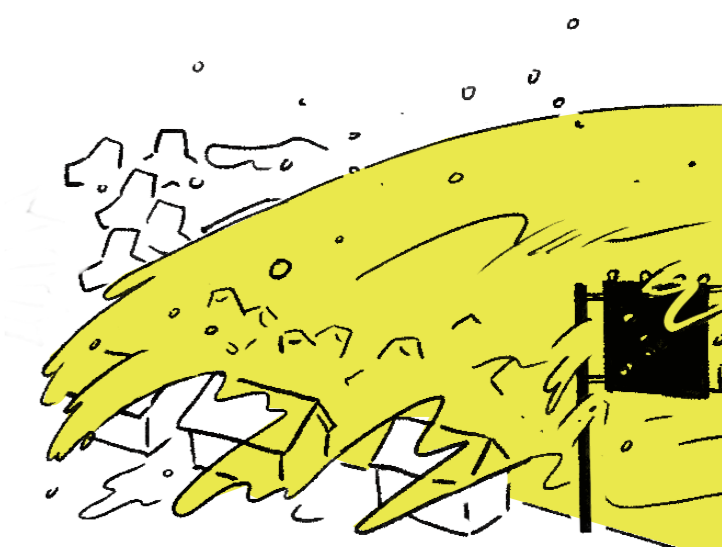
暴風のとき

屋外



暴風時の屋外は飛散物が非常に危険です。
無理な外出はしないでください。

海



台風接近時は高潮・高波が危険です。
なるべく高く安全な場所に避難を。

風の強さのめやす

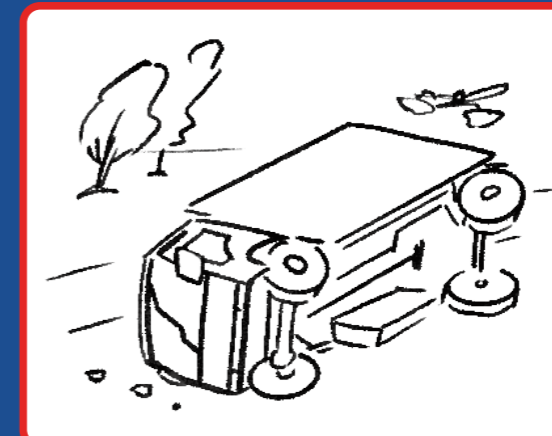


歩けない

平均風速

秒速(m/s) 20メートル

時速(km/h) 約70キロ



トラック横転

30メートル

約110キロ



家屋倒壊

40メートル

約140キロ

スマホ・テレビをうまく使いこなそう

災害時は、刻々と状況が変化します。最新の避難情報や気象情報を確認して、早めに備えておきましょう。



スマホアプリ

NHK ニュース防災 ニュース全般

Yahoo!防災速報 避難情報など

Yahoo!天気 気象情報

SNSアカウント

住まいの地域の自治体アカウントなどをフォローしておきましょう。

NHK ニュース @nhk_news

自治体 都道府県や市区町村

交通情報を要チェック

すでに交通が止まっている場合、無理な移動は避けて、学校や会社など安全な場所にとどまりましょう。運行情報は各社の特設サイトを確認。

テレビ

- 気象庁の臨時会見は要チェック
災害時の最新の情報はNHKで

避難判断のポイント

避難情報発令時はすでに危険な状況。最新の情報を要チェック。

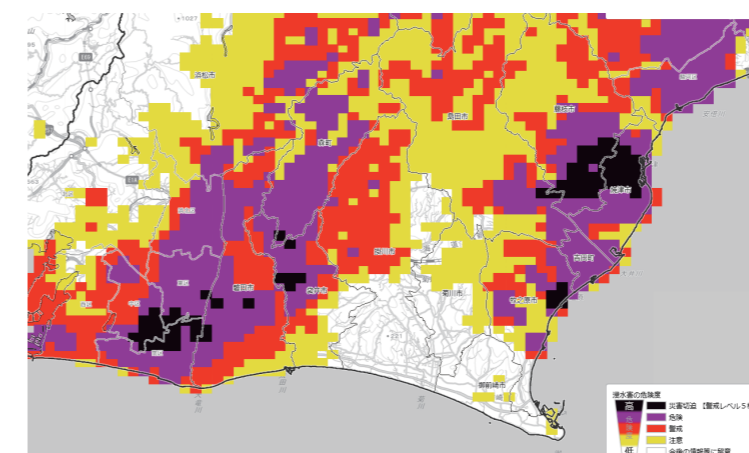
Table with 3 columns: 警戒レベル, 住民がとるべき行動, 避難情報. Rows include levels 5, 4 (全員避難), 3, 2, and 1 with corresponding actions and information.

暗くなると周囲や足元が見えず、極めて危険です。雨や風が激しくなる前に、そして暗くなる前に、早め早めの避難を心がけましょう。

いまとこれからの雨を確認しよう

いま危険な場所を知る

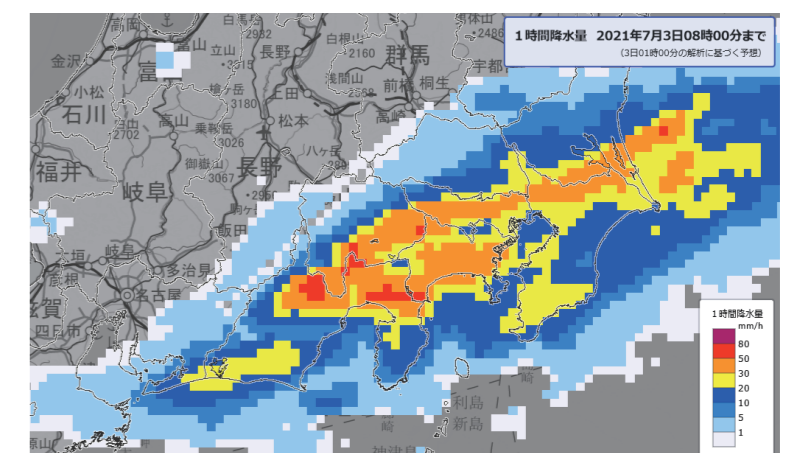
危険度分布 気象庁 検索



土砂災害・浸水害・洪水について いまどこが危険なのかをチェック

これからの雨を知る

今後の雨 気象庁 検索



15時間先までの雨の状況をチェック

出典：気象庁

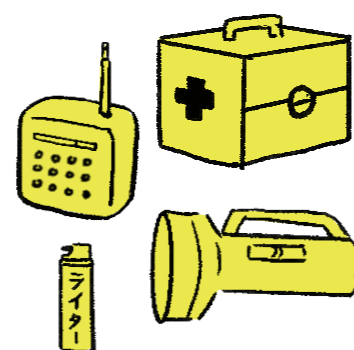
避難する直前に必ず確認すべきこと

！ 避難を判断したときに困らないよう、非常用持ち出し袋を日頃から準備しておきましょう。
また、避難の際に必要な身支度と、二次災害を防ぐ避難直前の確認事項をおさえておきましょう。



非常用持ち出し袋の確認

避難時に最小限必要なものを防災バックへ。
自分に必要なものを選んで準備しましょう。

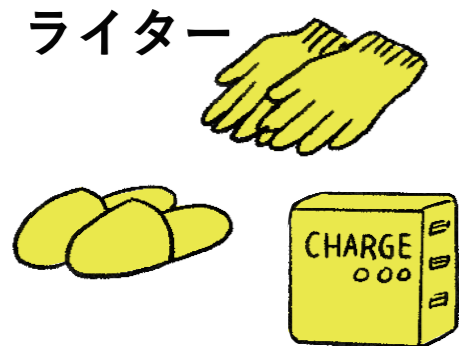


防災バック

- 飲料水
- 食べ物
- ナイフ
- 缶切り
- 乾電池
- 懐中電灯
- 筆記用具
- 耳栓
- タオル
- ロープ
- 菓子類(グミなど)
- 携帯ラジオ
- スマホ用充電器
- スマホ用予備バッテリー
- ティッシュペーパー
- 使い捨てカイロ
- ロウソク
- ライター
- 衣類
- ヘルメット
- 軍手
- スリッパ
- ゴミ袋
- くすり
- 救急箱
- 保温シート
- 携帯トイレ

必需品

- 貯金通帳
- 健康保険証
- 身分証明証
- 現金
- 印鑑



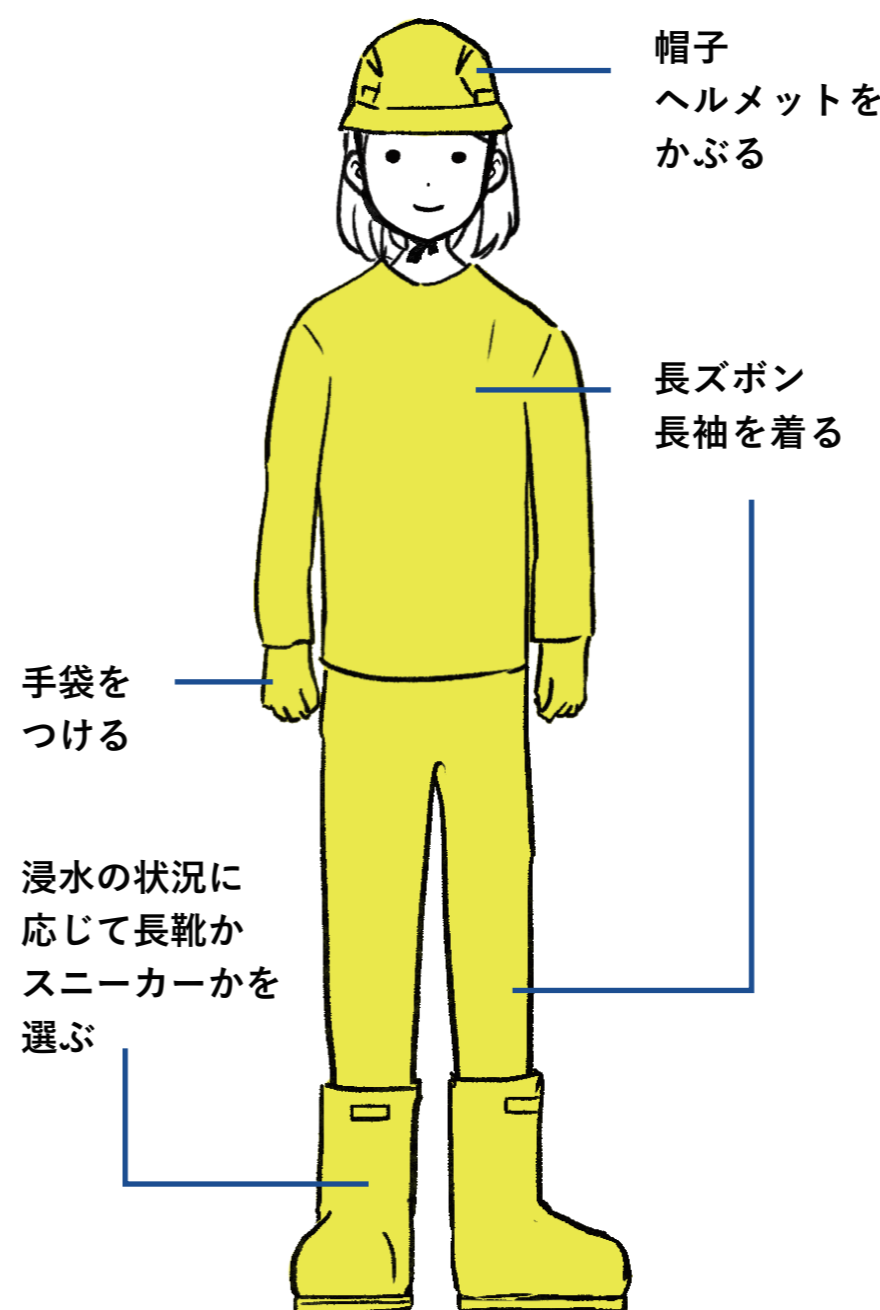
感染症対策のための必需品

- マスク
- 体温計
- アルコール消毒液



避難時の身支度

避難所に行く際は感染症対策も
念入りにした身支度をしましょう。



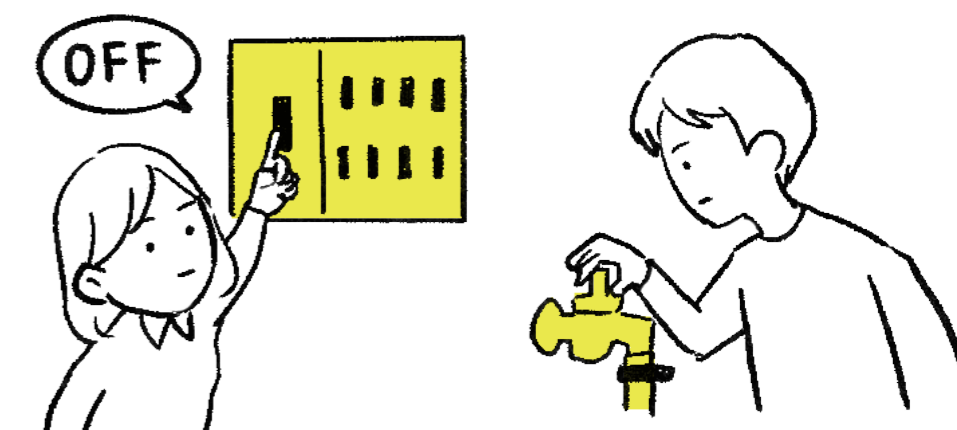
浸水の状況に応じて長靴かスニーカーかを選ぶ

寒さ・暑さに合わせて考えましょう。

アルコール消毒液を用意し、こまめに手を消毒しましょう。

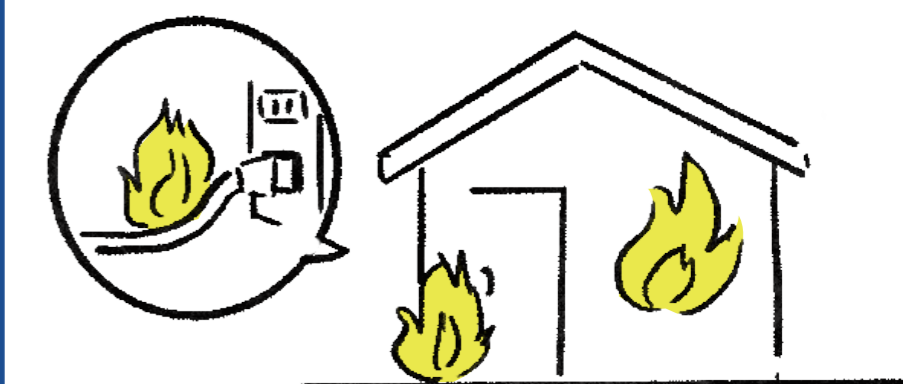
避難直前に家の確認

ブレーカーを落とす ガスの元栓を止める



二次災害を防ごう

電気・ガスが通るようになったときに、
火災などのおそれがあります。
避難直前のひと工夫で防ぎましょう。



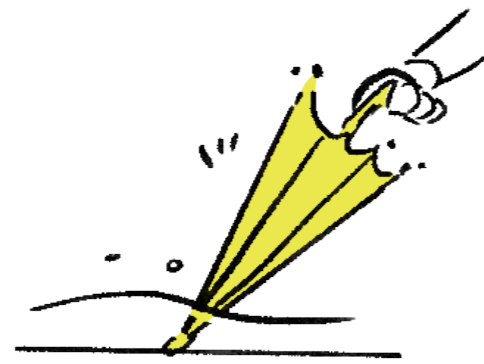
雨風のなか徒歩で避難するとき

浸水時の移動では、**側溝** や **ふたの開いたマンホールへの転落** に要警戒。

できる限り2人以上で行動

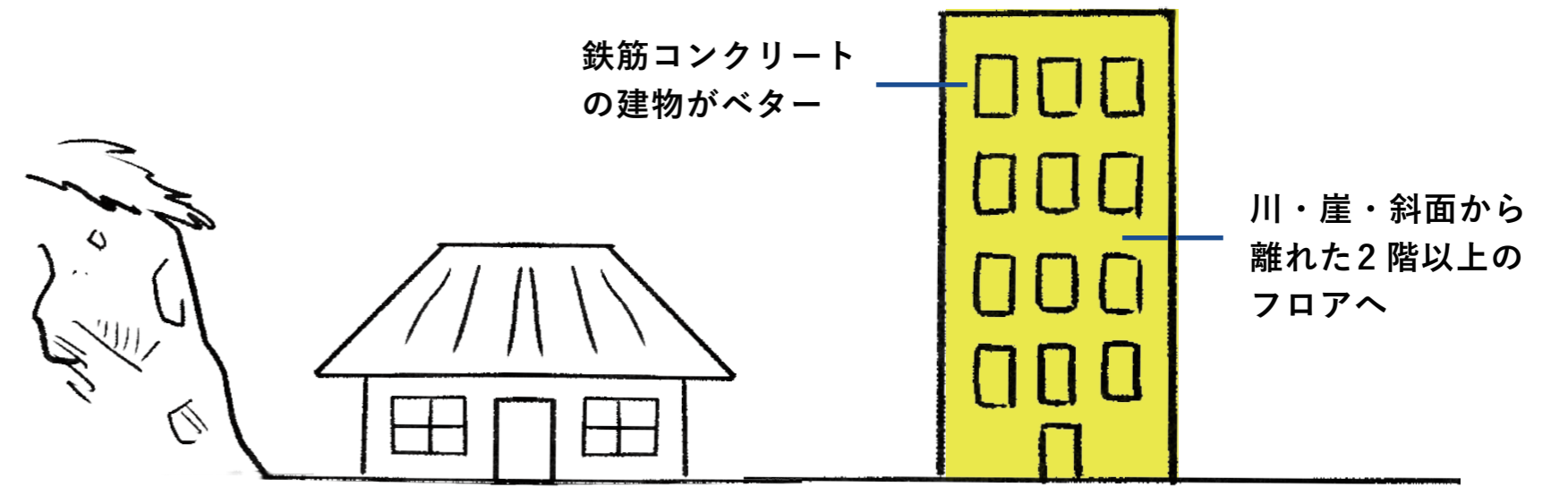
傘や棒などで常に足元を確認

できるだけ明るい時間に避難



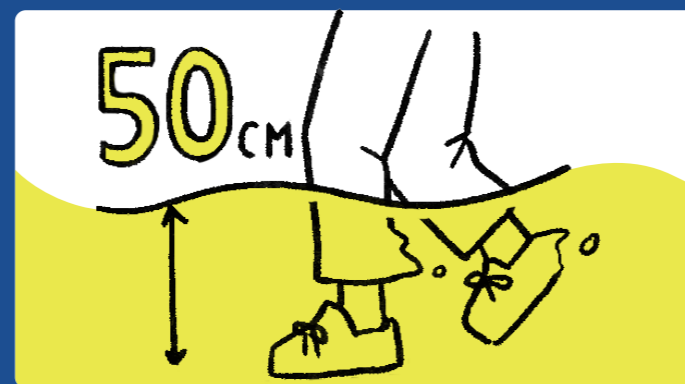
避難所への移動が難しいとき

川や崖から少しでも離れた近所の頑丈な建物へ避難してください。



歩ける深さ

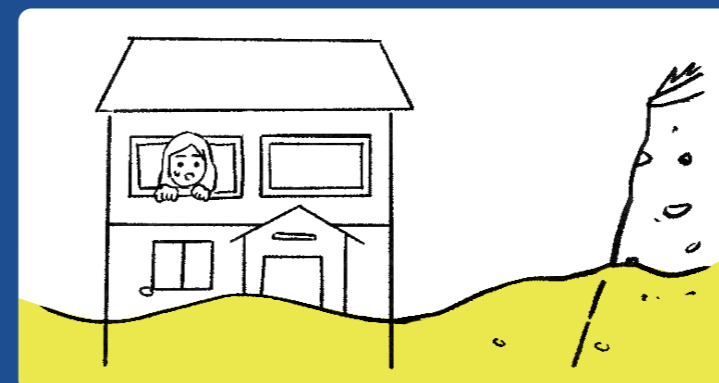
浸水時に歩ける水の深さは膝くらいまで。
水深50cm以上 になると、水の流れて足をとられる可能性があります。



すでに浸水してきたときの注意点



ドアは **水深50cm以上** で開かなくなります。
そうなる前に、ただちに避難を。



垂直避難は「最後の手段」。
上層階や崖・斜面と反対の部屋 で助かることもあります。

車での移動は危険

無理に車で移動せず、会社や学校などとどまって安全確保を。
・車が浸水したらすぐに外へ。
・**水深30cm以上** でエンジン停止の危険性があります。
・ドアも開かず、車ごと流される危険性があります。



! 場合によっては消防・警察・自治体に救助要請をしてください。